

漢検

平成24年度(2012年度)

検定日 平成24年6月17日

〔不許複製〕

財団法人 日本漢字能力検定協会

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

1 級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30) 1×30
1 〱 20は音読み、21 〱 30は訓読みである。

- 1 晃旒の珠玉が風に揺らぐ。
- 2 罰金若しくは答刑に処せられた。
- 3 鐘声が鏗鏘と響き渡った。
- 4 已むを得ず盟友と分袂した。
- 5 馬棟で擦って版画を仕上げる。
- 6 寸間も苟且に過ごさなかった。
- 7 旧い人情世態が倏忽として失せた。
- 8 晩年奕棋をこよなき楽しみとした。
- 9 月の虧盈をもとに暦が作られた。
- 10 主は縲紲のうちに在った。
- 11 覲然として恥ずるところがない。
- 12 犁牛の喩えどおり世に出る時が来た。
- 13 父子ともに蹇諤の節をつくした。
- 14 其の敗衄の因由を闡明する。
- 15 藐視して顧みない。
- 16 老耄と侮って痛棒を喰らった。
- 17 垣間見た美姫に眷恋する。
- 18 撃柝一声して幕が開いた。
- 19 木の罌缶を以て軍を渡す。
- 20 馱たる彼の飛隼其れ飛んで天に戻る。
- 21 機の梭の形に創意が窺われる。
- 22 持論を一齟聞かされた。
- 23 兵を挙げる時を愆った。
- 24 浅ましく老いさらばえた彪が現れた。
- 25 棚に据えた的を射る。
- 26 謾いて二代目を名乗る。
- 27 宜しく亟やかに出で来たるべし。
- 28 逆臣を誅伐し天下に徇えん。
- 29 名勝りて質孱し。
- 30 山に嘉き卉有り。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(30) 2×15

- 1 相場のハコウ状態に打つ手がない。
 - 2 繭の中でサナギが育つ。
 - 3 投手の交代が良い結果をモタラした。
 - 4 ひどくうろたえてビンショウを買う。
 - 5 職員のタガが緩んで事故が続いた。
 - 6 一家ダンランの時を過ごす。
 - 7 半生をかけてエンザイを晴らした。
 - 8 老大家のスイバンで文壇に出る。
 - 9 フシクレ立った手が斧を取った。
 - 10 水泳中にコムラ返りを起こす。
 - 11 両家のイヤサカを祈る。
 - 12 カクシヤクとして衰えを知らない。
 - 13 光明、カクシヤクとして輝く。
 - 14 カヤの碁盤を注文した。
 - 15 茶室の屋根をカヤ葺きにする。
- (三) 次の傍線部分のカタカナを国字で記せ。(10) 2×5
- 1 左手首に革製のトモを結んだ。
 - 2 最終走者にタスキを渡す。
 - 3 ハラカは朝廷への献上品とされた。
 - 4 オオボラの卵巣から蠟をつくる。
 - 5 ホ口を靡かせて戦場を駆けた。

(四) 次の1 〱 5の意味を的確に表す語を、左の 〱 から選び、漢字で記せ。(10) 2×5

- 1 付き合いを親密にする。
- 2 諸国を遍歴する。
- 3 貪欲で極悪無慈悲な人。
- 4 身近に接して感化を受ける。
- 5 今にも絶えそうな息。

きょうゆう・けいがい・こうじゅん
さいろう・しんしゃ・ぱっしょう
よせん・るいじゃく

(五) 次の四字熟語について、問1と問2に答えよ。(30)

問1

次の四字熟語の(1 〱 10)に入る適切な語を左の 〱 から選び漢字二字で記せ。(20) 2×10

- | | |
|----------|-----------|
| ア (1) 微笑 | カ 扇枕 (6) |
| イ (2) 燕説 | キ 蒼蠅 (7) |
| ウ (3) 反正 | ク 衣錦 (8) |
| エ (4) 鼓腹 | ケ 海底 (9) |
| オ (5) 嘲晰 | コ 弾丸 (10) |

えいしよ・おうあ・おんきん
がんぼ・きび・こくし
しょうけい・ねんげ・はつらん
ろうげつ

問2

次の11 〱 15の解説・意味にあてはまるものを、問1のア 〱 コの四字熟語から一つ選び、記号(ア 〱 コ)で記せ。(10) 2×5

- 11 こじつけ。
- 12 才能や徳を外に表さないこと。
- 13 以心伝心に同じ。
- 14 尺寸の地をいう。
- 15 無駄な努力。

1 級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

(六) 次の熟字訓・当て字の読みを記せ。

(10) 1×10

- | | |
|------|--------|
| 1 直衣 | 6 馬尾藻 |
| 2 胼胝 | 7 玉筋魚 |
| 3 馴鹿 | 8 胡孫眼 |
| 4 鳳梨 | 9 梅花皮 |
| 5 交喙 | 10 草石蚕 |

(七) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを送りがなに注意して)ひらがなで記せ。

(10) 1×10

- | | |
|--------|-------|
| ア 1 濬機 | 2 濬う |
| イ 3 寤寐 | 4 寤める |
| ウ 5 出售 | 6 售る |
| エ 7 粥獄 | 8 粥ぐ |
| オ 9 天闕 | 10 闕ぐ |

〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょうすぐ

(八) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。

(20) 2×10

対義語

類義語

- | | |
|------|-------|
| 1 安佚 | 6 自儘 |
| 2 犀利 | 7 騙詐 |
| 3 雇傭 | 8 挺身 |
| 4 愉悦 | 9 乱丁 |
| 5 顕達 | 10 挂冠 |

おうしょう・おうのう・かくしゅ
さつかん・じんすい・ちし
どどん・ほうらつ・まんちゃく
りんらく

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分漢字で記せ。

(20) 2×10

- ヤスリと薬の飲み違い。
- 煤掃きのコメビツ。
- 命を知るものはガンシヨウの下に立たず。
- シモク大なれど視ること鼠に若かず。
- 狂瀾をキトウに廻らす。
- 親父の夜歩き、息子のカンキン。
- 大旱のウンゲイを望むが若し。
- 一髪センキンを引く。
- カンポウの交わり。
- オンザの初物。

(十) 文章中の傍線(1～10)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。

(30) 2×10 1×10

A 我が思う所は斯の身に在り。蟠屈却つて期す一朝に伸ぶるを。予め知る成敗自ら数有るを。豈屯蹇の為に性真を失わんや。天歩¹カンナン怒浪の如く。世途の嶮巇²列嶂に似たり。之を排し之を蕩かす是吾が任。区々の辛酸愴³むを用いず。古より英雄僕奴に出ず。異才往々狗屠に隠る。果たして知る溷乱紛争の世。或いは出ず奇偉俊傑の徒。宝刀匣に在り氣⁴ボツボツ。何れの時にか能く姦佞の骨を刺さん。海若眠る時天地静かに。枉⁵げて哀琴を把り皓月に嘯く。月は大空に横たわりて千里明らかに。風は金波を揺るがして遠く声有り。夜寂々望み茫々。船頭何ぞ堪えん今夜の情。

(東海散士「佳人之奇遇」より)

B 国府正文と呼ぶ者あり。時世の泰否に関心せず漠然遨遊歲月を送る。適風日美妍に乗じ毎に阿諛佞媚を以て親褻するところの幫間を伴い墨江に向けて去り堤上をハイカイし其の勝景を賞観す。時方に首夏江東の紅紫早く已に飄零し煙靄一抹嫩緑陰を成し堤樹鬱葱⁶し一帯の長流漣漪⁷織るが如く唯浮鷗の両三風に随いて遊ぶを認むるのみ。正文は今此のシヨウ⁸ウ⁹シヤの佳景に対し夏浅くして却つて春に勝ると吟ぜし古人の風懷を憶い起こして覚えず游杖に日晷¹⁰を移し來たる。

(戸田欽堂「情海波瀾」より)

C 翁は其のヒンブ¹、温順沈実にして博学多才、君に事えて誠忠を致し、母に事えてコウジュン²を尽くし、朋友に交わりて信義を重んじ、實に是当世の一人物也。近頃は西洋学さえ好みて、地理書を研究しければ、分けて交わり厚く、朝夕となく往来し、何くれとなく相謀りしに、かかる人物なれば、物常に精密にして、鹵莽³の挙動なく、律令を犯すべき筈無きに、今斯く囚われと成し所以は如何んぞと考えるに、近歳凶歉⁴打ち続き、人心恟々安ぜず、富める者は益富み、貧しき者は愈窮し、窮民処々に騷擾し、世間何となく騒がしかりければ、コウガイ⁵の心より万国の国体・政務・人情・世態等、蘭書中より抄出し、又は伝聞に出でたる事なども湊合し、駄舌小記と題して編集し、又近頃モリソンの事、世評高かりしかば、キユウ⁶の余り、イギリスの風俗・国情より、モリソンの事迄も考究し、和漢古今の旧弊、当今御政務の得失迄も、彼是と議論し、慎機論と名付け、書き綴りしとなん。しかはあれど、二書、漫りに人に示せし事有間敷に、或る人のカン⁷チヨウ⁸、早くも駄舌小記を一見せし事有りて、是よりザンソウ⁹せしなれば、御疑いかりたる身とは成りにけり。

(高野長英「わすれがたみ」より)